

フェローシップ・ニュース NO.30号

アパリ東京本部が新しい事務所に移りました！
詳しくは2ページをご覧ください。

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

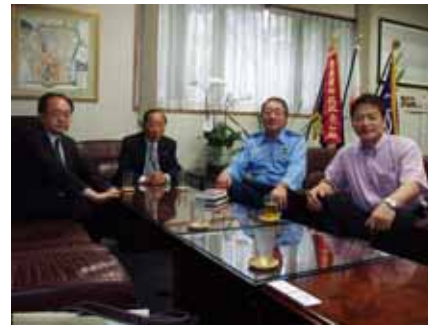
発行日
2008年9月1日

警視庁愛宕署訪問

アパリが警視庁との間で業務委託契約を締結している薬物再乱用防止カウンセリング事業に、精力的に参加者を紹介してもらっている愛宕警察署に訪問することになり、アパリから監事の奥田弁護士、事務局長の尾田、スタッフの志立の3人が、平成20年8月11日(月)、警視庁の愛宕警察署を訪問し、署長の久氏と銃器薬物対策係長の蜂谷氏と面談することができました。警視庁のモデル事業は、当初は警視庁管内の6警察署(新宿署、渋谷署、池袋署、麻布署、巣鴨署、浅草署)で取り扱った薬物事件で即決裁判を受けて執行猶予となった者に対して、アパリでプログラムを受けるようにと教示されていましたが、現在では、23区内の全警察署で教示されるようになっていきます。

蜂谷氏は、「売人組織の摘発の過程で末端の薬物乱用者を逮捕することになるが、ただ捕まえるだけでなく、薬物依存症から回復してもらうようにすることが何よりも大切だ」という意識でやっている」とのことでした。

再犯防止には、何よりも初犯者対策が大切だと思います。それなのに、即決裁判制度の導入により、逮捕からわずか1ヶ月程度で、薬物乱用防止に向けた何の義務付けもないまま、最初から執行猶予で釈放されることがわかっている1回の裁判だけで執行猶予付判決が言い渡されて社会に戻ってしまうことになっています。警視庁の薬物再乱用防止カウンセリング事業は、希望者に対してのみ実施されるものです。このプログラムへの参加者が一人でも増えることを期待しています。



右から蜂谷氏、久署長、奥田弁護士、尾田事務局長

<薬物再乱用防止モデル事業の概要>

警察庁は他の官庁に先駆けて日本で初めて初犯の薬物自己使用事犯者に民間団体による薬物再乱用防止プログラムを継続的に実施して、薬物の再乱用の防止を図るとともに、末端乱用者の減少を図ろうとするモデル事業を平成19年10月から開始しました。

プログラムの受講者は、下記 ~ の要件を満たす者です。

覚せい剤などの薬物事件で都内23区の警察署で検挙された成人男性であること

即決裁判で執行猶予判決が言い渡されたこと

捜査官からアパリのプログラムを受けるように教示されたこと

の者のうち、アパリがインテークを実施して受け入れを承諾したこと

参加者が2名集まった時点でプログラムを開始します。参加費用は無料で、開催日時は毎週土曜日の13:00~17:00、場所は日本ダルク本部のミーティング・ルームにおいて、以下のプログラムを提供します。

週1回アパリスタッフによる唾液検査キットを用いた簡易薬物検査

週1回ダルクスタッフによるグループ・ミーティング

月1回精神科医・弁護士等の専門家による薬物関連問題についての講義

アパリでは司法修習生の受け入れを始めました

アパリでは、平成20年9月29日からの3週間、司法修習生(第61期)を一人、受け入れることになりました。選択型実務修習という制度が平成18年に始まり、修習生の進路や興味、関心に応じて、主体的に選択、設計することができるようになったことから、今年の5月に受け入れの打診を受けたのが始まりでした。アパリでは、刑事司法手続の各段階にいる薬物依存症者に対して、薬物依存症治療が受けられるようにするための各種コーディネート業務を実施しておりますが、将来、法律実務家になる修習生の方々に、薬物依存症について理解してもらうことは大変意義あるものと思います。

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所(Asia-Pacific Addiction Research Institute)の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次:

愛宕署訪問、司法修習生の受け入れ開始...尾田	1
東京本部新事務所へ移転 映画・ドキュメンタリー「赤い糸」撮影に協力	2
薬物依存症と家族の対応について(7)...町田政明	3
HIVワークショップに参加して...プーキ 三菱財団助成事業・HIV啓発パネル完成...ト	4 5
入寮者からのメッセージ...マリオ 藤岡ニュース! 会員募集中!	6 7
アパリからのお知らせ	8

アパリ東京本部が新しい事務所に移りました！

8月11日（月）よりアパリ東京本部は下記に移転しました。

< 新住所 >

〒110-0014 東京都台東区北上野2-2-2 ピースフル北上野1F

電話番号とFAX番号は変わりません。

東京本部では、司法サポートの事務的な業務、フェローシップ・ニュースの発行やご家族の相談等を行っております。スタッフも増え、今までの事務所では手狭になり、新しいところに引っ越すことになりました。面談室もありますので、カウンセリング等にご利用いただければと思います。かつば橋本通り商店街に面しています。どうぞお立ち寄りください。

絶賛発売中！！

アパリ理事・石塚、尾田、嶋根が執筆しています。本書は、従来刑罰しかなかった薬物事犯者対策に薬物依存症治療を導入したドラッグ・コート制度を日本でも創設しようと提案する日本で初めての書物です。



「日本版ドラッグ・コート」
定価：2,625円（税込）
発行：日本評論社
最寄りの書店でお買い求め



面談室



事務所の外観



事務所の風景



ケータイ小説『赤い糸』のドラマ・映画にアパリが協力 2008年12月にフジテレビ系で連続ドラマ化、松竹にて映画化！

女子中高生に人気のケータイ小説『赤い糸』がフジテレビ系にて連続ドラマ化され、同時期に松竹より映画が公開されます！

全体的には純粋な中学生のラブストーリーなのですが、原作とは多少異なり、母親の薬物依存の問題が出てきます。母親が薬物依存症になり、リハビリ施設で更生していくという場面があります。そういった薬物に関わる様々な場面でのアドバイザー役としてアパリは制作会社から薬物依存症の監修を依頼されました。監督、助監督、プロデューサー、美術さん等多くのスタッフが何度もアパリやダルクに足を運び、熱心に薬物依存について勉強されていました。

病院の医師がリハビリ施設への入寮を勧めるシーンでは、美術さんが本物に見えるようなパンフレットや、壁に貼る自助グループのチラシなどあっという間に作っていました。私たちが潜入したクラブの撮影では、スタッフ、出演者、エキストラ含めて総勢100名近くがひしめきあう中、同じシーンを何度も練習し撮り直して、こんなに多くの人と時間をかけて作品が出来ていくのかととても感心させられました。スタッフは各役割（照明・録音・美術・ヘアメイク等）をテキパキとこなし見事な連携プレーでした。

西野夏実役の山本未来さんは、「自分は薬物依存症の役をやるのですが、薬物を使うとどのような状態になるのですか？口調はどんな風になるのですか？」と役作りのために熱心に質問していました。息子役で若手人気俳優の溝端淳平さんは母親が更生するために励ます役を演じます。

リハビリ施設のロケは茨城県鹿島市にある、地中海の教会をイメージした白亜の建物で撮影します。こんな素敵なリハビリ施設だったら、どんなにいいだろうと思います。

2008年12月赤い糸の映画と連続ドラマにご注目ください。

< 赤い糸公式ホームページ > <http://www.akai-ito.jp/index.php>



リハビリ施設のロケ地（鹿島）

家族のための連続講座

薬物依存症と家族の対応について(7)

「共依存のルーツ」

カウンセラー 町田政明

共依存とは反応です。今あるあなたが共依存であるならば、あなたの環境や原家族との関係から学んだことだと思えます。共依存のルーツについて探りたいと思えます。

環境の問題

環境の中で時代の問題は大きな問題だと思えます。明治時代には妻は3歩下がって歩かないといけなといわれました。いつも妻は夫を立てて夫を支えること、内助の功が理想の妻といわれました。今で言えば夫に対して完璧な共依存の妻が良いとされたわけです。今の時代ではとても考えられないことです。

このように時代によって価値観が違い、支えることは当たり前でとても美德と思われた時代もあります。明治時代の人にとって共依存は美德であったのです。今では笑いものにされてしまいます。

時代の価値観によって共依存が奨励されたり、否定されたりするということです。人は時代の価値観に翻弄されます。その具体的なものが家庭です。現在も学校や会社の中でも同じことが起こっています。学校では回りの人とあわせて生きていることを要求されます。みんなと同じに同化することを求められます。個人個人はそれぞれの欲求と感情を持ち合わせていますが、それを押し殺して回りの人に合わせることを要求されます。

会社の中では、人は会社の歯車にならないと生きていけません。会社のために自分を犠牲にして、サービス残業したりしなければなりません。正社員として働けるなら良いほうで、派遣でいつ首になるかわからない人たちにとって、会社の言われるままにただただ身を粉にして働かないといけません。

今の時代も、明治時代とは違う形で自分を殺して生きていかないと生きていけません。

原家族の問題

人の性格や生き方に大きな影響を受けるのは、幼い子供時代を過ごす原家族だと思えます。

いきなり支配的で、お世話好きで、自己中心な性格になるわけではありません。祖母や母、祖父や父の後姿を見て子供は育ちます。親などの価値観をそのまま受け継いだり、親のようにはなりたくないと反対の性格になったり、なりたくないと親と同じ性格になったりします。反対の性格になっても親の影響があるわけです。

親の価値観を受け継ぐだけでなく、夫婦の関係も子供に大きな影響を与えます。夫婦関係が良くないと安心できないから親の顔色を窺って生きるようになり、自分を殺して生きるようになり、人のことばかり気にする人になります。

親が厳しい性格だったりしても言うとおりにしないと怒られるから、親の顔色を窺って生きるようになります。また、依存症などの問題を持っている家族に育った子供も家がごたごたしているから落ち着けなくいつも依存症の親の顔色を窺ったり、困っている親を支えたりして生きるうちに自分を亡くしていきます。

このように子供は、原家族の影響をもらって生きています。子供は大人と違って逃げる事が出来ないのです。そこで何とか生きようと回りに合わせたり顔色を窺ったり、良い子をしたりして、存在をなくしたりして、自分を殺して生きることを学びます。親の問題を自分が引き受けて生きていくようになるわけです。

このような形で社会や家族の中で共依存は連鎖していきます。

原家族で何を学んだか

原家族の中で学んだことが、自分の価値観や性格になっていきます。原家族の中でどんな考え方や価値観を学んだのでしょうか。今の生き難さを考える上で、原家族で学んだ考え方のパターンや価値観、性格を明らかにしていくことが、必要なことです。

そこで学んだ完璧主義、白黒思考、先取りの不安、誇張したものの見方、他人のことばかり気になり他人のことばかりする生き方、自分の価値観を押し付ける支配的な性格、あなたの為という「愛という名の支配」、あなたの為という隠れた支配の中にあるごう慢な生き方など多くの問題がありませんか。

家族の体験記
好評販売中！

ギャンブル依存症に悩む
家族の物語
～絶望から希望へ～

この本には、ギャンブル依存症で悩む8人の家族の体験が綴られています。これは真実の物語です。家族の貴重な体験を知ることができる貴重な一冊です。

定価：1,000円
発行：ホープヒル
(アパリで販売中)

これらの原家族で学んだことは、家族を選べない子供にとって仕方のないことでしたが、大人になったあなたは同じようにすることもないし、生きにくいと思ったら、変えていけば良いのです。それには自分が原家族で学んだことを認識する必要があります。それには自分の子供時代に遡り、父や母の問題、父母の関係などを洗いなおして、その子供はどう感じていたのか、そしてどう影響を受けて自分はどんな考え方のパターンを身に着けたのかを知る必要があります。

そうすることによってはじめて自分の共依存の生き方を見直すことができます。

薬物依存症者に対するHIV感染に関する ワークショップに参加して

Pooky

ロイ神父からのメッセージ
DVD付き書籍
販売中！

『仲間になってくれて
ありがとう』

昨年他界したロイ神父が20年以上にわたりマック・ダルクを通して語ってくれた数々の貴重なメッセージと、彼の“仲間”からの手紙を綴った珠玉の一冊。日本における依存症リハビリ施設の歴史を知り、回復者たちの生の声を聞くことができる総頁数500ページを超える重厚な内容に加えて、ロイ神父のビデオメッセージが収録されたDVD付き。援助職の方、ご家族、当事者などさまざまな立場の方にとって必読のバイブルです。一般の書店ではご購入できません。

定価：3,500円

FAX：03-5830-1791
メール：info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

平成20年度厚生労働科学研究エイズ対策事業の一環として、2008年8月22日・川口メディアセブンにおいて行われた、全国のダルクスタッフを中心とした関係者を対象とする「薬物依存症者に対するHIV感染に関するワークショップ」に参加してきました。

研修においては、HIV/エイズを専門とする「ふれいす東京」のスタッフの方々やエイズ拠点病院のワーカーの方々の協力で行われた参加型のワークショップでした。

はじめに、国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部長の和田清先生による、薬物乱用・依存者のおけるHIV感染の推移及び現状の説明から研修が始まり、次に各参加者、5グループに別れHIV陽性者の手記を読む事を行いました。

これは、各グループ5～6人のメンバーが、様々な13の経験が綴られたHIV陽性者の手記の中から各自1つ選び声に出して読み合わせを行うもので、3分間の砂時計を用いて時間を計り、余った時間に感想等を述べ、最後にグループの中の一人が全体の感想を述べるというもので、参加者はそれぞれにその感染経路の多様さや差別・偏見等の問題点、または家族や周囲の人々の愛情や優しさ、そして陽性者本人の強さや前向きさを語り合いました。

その後休憩を取り、安全なセックスと感染防止についてのワークショップに移りました。各グループ、A4の紙に感染しうる性的行為や予測される感染経路、そしてその予防策等を書き、ある程度まとまった所で床に各グループのレーンを設け、各グループ、基準となる性的行為の紙をレーン中心に置き、それよりも感染率が高いと思われるもの、低いと思われるものをグループのメンバーで話し合いながら振り分けて並べていく事を行いました。感染経路として予測される性的行為などの選出も参加者それぞれ色々な引出しから出し合い、表現しにくい行為も、それはそれで真剣に話し合い感染しうる行為の正確な知識やその感染率、予防策などを実感しあいました。

そして次にロールプレイのワークショップで、これは5つの場面での短い寸劇をグループごとに1場面ずつ演じるもので、各グループから2名が選ばれ、その2名が前方ステージ上の二つの椅子に座り寸劇を演じるというものでした。ロールプレイの内容は、登場人物として架空のダルクに入寮中でHIV陽性を知り不安な主人公、カウンセラー、セックス/針の共有があった過去の関係者、同じダルクの入寮者、ダルク施設長の5役があり、場面1では主人公がカウンセラーに不安な気持ちを相談しに行くもので、場面2では、周囲の人に自分の検査結果を伝えるべきかどうかという内容、場面3では過去にセックス/針の共有があった関係者に知らせるべきかどうか考え伝える様子、場面4はやはり、ダルクの仲間に打ち明けるべきかどうか考え伝える様子、場面5でダルクの施設長に伝えるというものでした。そして最後に、これからダルクなど施設としてHIV感染に関し、どう取り組み始めるのか、また出来ることは何かと言う事を考え、ワークショップは終了しました。

今回、この研修に参加してみて、参加者の一体感を感じたことや、前例のあるダルクでのこれまでの経験、また様々な情報交換等が出来たなど、自分自身にとってもより掘り下げてHIV感染に関して考えられた様子が感じられました。また、これからも変化しうる情報やこのモチベーションを保ち続ける為にも、定期的な研修の必要性を感じました。



ロールプレイの風景
右がHIV陽性者役で左がカウンセラー役

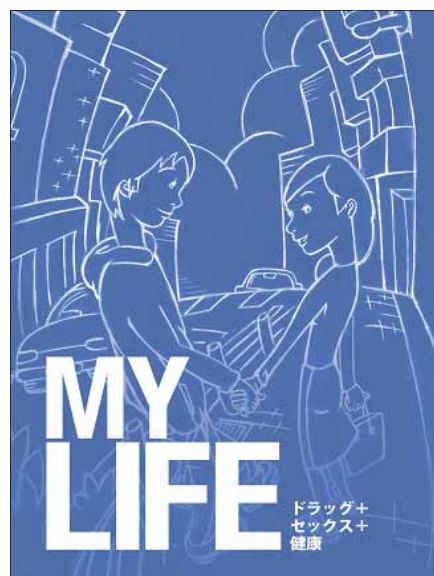
ドラッグを使う人のための 感染症(HIV、C型肝炎などなど・・・)予防 パンフレットできました (絶賛配布中です!!)

ソーシャルワーカー コトー

ドラッグは誰でもやめられるわけではありません。ドラッグを使いながらセックスすることもあるかもしれません。ときには、注射器をまわし打ちすることもあるかもしれません。そして、その結果、エイズやC型肝炎などの重い病気(感染症)にかかることがあるかもしれません。アパリではドラッグを使う人の健康のため、セックスや注射器のまわし打ちで病気にかかるリスクをすこしでも減らすことを目指して、2つのパンフレットを作成しました。

『MY LIFE : ドラッグ+セックス+健康』は、“ドラッグ+セックス”でかかるHIV・エイズなどの性感染症についてのパンフレットで、おもな内容は次のとおりです。

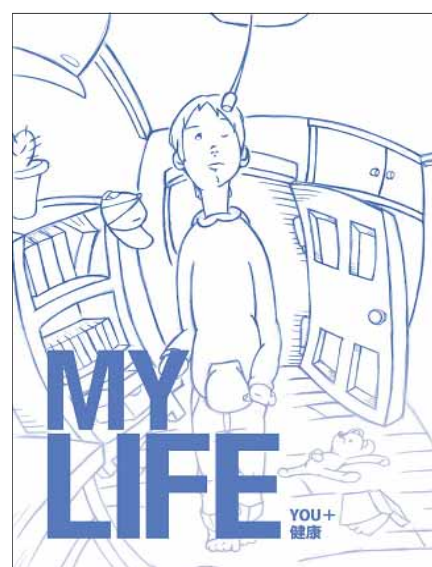
- ・薬物を使いながらセックスすることがあるかもしれない人へのメッセージ
- ・セックスでかかる性感染症のこと
- ・HIV・エイズとは何か
- ・どうやってHIVに感染するのか?(セックスによる感染を中心に説明)
- ・どうやってHIVの感染を予防できるのか?(コンドームの説明、正しい使い方、コンドームを使わない場合の感染リスクを下げる方法などを紹介)
- ・保健所やクリニック等でのHIV検査のこと
- ・HIVの治療のこと
- ・相談できるところ



『MY LIFE :
ドラッグ+セックス+健康』

『MY LIFE : You + 健康』は、“ドラッグの注射”でかかるHIVとC型肝炎についてのパンフレットで、おもな内容は次のとおりです。

- ・注射器をまわし打ちすることがあるかもしれない人へのメッセージ
- ・HIV・エイズ、C型肝炎とは何か
- ・どうやってHIVやC型肝炎ウィルスに感染するのか?(注射器具を通しての感染を中心に説明)
- ・どうやって注射による感染を予防できるのか?(まわし打ちをする場合の注射器の消毒方法についてなどを紹介)
- ・保健所やクリニック等でのHIVとC型肝炎検査のこと
- ・HIV・C型肝炎の治療のこと
- ・相談できるところ



『MY LIFE : You + 健康』

両パンフレットともにドラッグならではのポイントとして、ドラッグを使うときの注意点、ドラッグの使用がHIVやC型肝炎の検査にどう影響するのか、注射器だけではなくボディピアスやタトゥーによる感染の予防、ドラッグの使用がエイズやC型肝炎の治療に与える影響について等の内容が盛り込まれています。

このパンフレット作成プロジェクトは、財団法人三菱財団の助成金を受けて、2006年秋にスタートし、その後約1年間に合計10回の感染症勉強会を開催し原稿を完成することができました。原稿作成には、女性ハウスをはじめ関東圏にあるいくつかのダルクスタッフや利用者、薬物依存症の治療を提供している精神科クリニックスタッフ、保健師、精神科医、感染症の内科医、HIV・エイズのNGOのスタッフに協力していただきました。また、デザインやイラストに関しては、薬物依存に深い理解がある専門家に参加していただき、ドラッグを使う人が手にして、読んでもらえるような親しみやすいパンフレット作りを目指しました。

このプロジェクトはアパリ単独では到底できるものではなく、多くの方々、団体のおかげで完成することができました。ご協力いただいたみなさまに心から感謝を申し上げます。そして、ドラッグの使用と感染症という問題に取り組んでいくうえで、HIV・エイズ、C型肝炎、性感染症、女性、ゲイ・レズビアン等のセクシャルマイノリティーなど、さまざまなコミュニティで活躍されている団体とのネットワークを深めることができたことは、なによりも幸いなことであり、薬物依存と感染症に関する問題を抱えている人を、そのようなさまざまなサービスや団体に橋渡しできるようにしていきたいと思っています。

2つのパンフレットは、全国のダルクをはじめ、薬物依存やHIV・エイズなどに関係する団体、福祉・保健・医療施設などに配布しています。

ご興味がある方は、どうぞ遠慮なくアパリまでお問い合わせくださいませ。

平成18年度
三菱財団社会福祉事業
「薬物使用者に対するHIV感
染予防資材事業」

「薬物依存」 DVD販売中!

アパリが作成したDVDで本人の体験談や、近藤恒夫の話が約30分間収められています。学校での薬物乱用防止教育、行政の職員の研修で利用されています。

1枚 3,000円

FAX : 03-5830-1791
E-mail: info@aparil.jp

ご希望の方はご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

平成12年作成

アウェイクニングハウス 入寮者からのメッセージ

「自分の変化」

マリオ

僕が、薬物を使い始めたのは17歳の頃でした。

その頃はマジックマッシュルームをはじめとする脱法ドラッグが流行っていました。

ニュースの報道で脱法ドラッグに興味を持ち、マジックマッシュルームを購入し服用しました。しばらくすると今まで味わったことのない高揚感と色鮮やかな幻覚を見ました。僕は、その一回で薬物に強い魅力を感じました。僕はヘッドショップに通うようになり、ケミカルから幻覚植物まで様々な脱法ドラッグを買いあさり試すようになりました。脱法ドラッグの規制が厳しくなると、大麻、LSD、MDMA、覚せい剤など違法な薬物を売人から買い使用するようになりました。

いつしか、いつも薬物のことばかり考えるようになりました。薬物をやれば退屈な日常も驚きと新鮮味に満ちたものへと変わる。薬物は自分の感性を豊かにしてくれるものだ。僕は薬物が好きだ。大好きだ。だから僕は薬物を一生使用していきたい。そう思っていました。しかし、薬物を使用していく中で薬物の恐ろしさを感じる時が何度となくありました。バッドトリップに苦しんだり過剰摂取で錯乱状態になったりしました。警察に尿を採られたこともあったし、病院の保護室に入れられたこともありました。そのような事があるたびに薬物の使用を控えようとするのですが、辛いことも喉元を過ぎればケロッと忘れてしまい、また薬物使用にふける日々ですぐ戻ってしまいます。

そんな生活を5年くらい続けました。大学は辞めてしまうし、自動車学校に通ってもすぐ行かなくなってしまうし、バイトも休みがちになりました。薬物を使用すること以外のことに酷く無気力で諦めやすくなりました。薬物を使用しないときが無意味で退屈でたまりません。いつでも薬物を使えるお金と時間と場所を確保するのに必死でした。また両親を苦しめていることへの罪悪感、警察に捕まるのではないかという恐怖、周りに対しての劣等感などといった感情が僕を苦しめていました。薬物を使用するとそういった感情が幻聴や妄想になって襲い掛かってきました。

ある時、覚せい剤でおかしくなり大量の安定剤を服用し病院に担ぎ込まれました。そして、病院から直接、親に連れられて施設に来ました。よくわからないまま施設で生活することになりました。生活は全てのことが苦痛でしょうがありませんでした。最初のうちは寝てばかりいました。また、口うるさく「身の周りの整理をしろ」とか「昼間から寝るな」とか言う仲間が煩わしくてなりません。一人で部屋の中で物思いにふけっていると、いつも施設を出たいという考えが浮かんで来て、一ヶ月で施設を飛び出しました。親に施設を出たいという意思を伝え、もう一度家に受け入れてくれるように言っても、親は「施設に戻れ」の一点張りで自分の意見をろくに聞いてもらえませんでした。仕方なく大嫌いな施設に戻りました。周りに色々言われるのが嫌だったので、少しずつプログラムをこなし、集団生活でのマナーを身につけるよう努めました。嫌々ながら言われたことをこなすうちに、生活が充実していくのを感じました。仲間とも打ち解けられるようになり、少しずつ生活が楽になってきました。施設での生活は好きではないけれども、どうせ居るならば、毎日笑顔で充実した日々を送りたいと思うようになりました。そのためには自分が生活を充実させるための努力をしなければならぬということ学びました。今でも薬は好きだけどクリーンでいる方が楽な生き方ができることが解りました。今後、薬の使用が止まるのかわからないけれども、今はクリーンでも生きることを楽しめる気がします。

アパリ発行
「Born・Again (ボーン・アゲイン)」
体験談 販売中!

2005年5月に第2版が発売になりました。

体験談が13人分収められています。

アパリではこの本を拘留所や刑務所にいる人への差し入れ用として使っています。

定価：1,500円
(会員価格:1,000円)

お申込はメールか
ファックスで

FAX：03-5830-1791

メール：info@apari.jp

ご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

藤岡 ニュース!

日本ダルク アウェイクニングハウス 群馬D A家族会 第1 回合同フォーラム

日時：9月14日(日) 12時開場、12時30分開演、16時45分終了予定

場所：藤岡市民ホール群馬県藤岡市藤岡1567番地4

交通：八高線「群馬藤岡」下車徒歩10分

電話：0274-22-3305 参加費：無料

テーマ：「薬物依存症からの回復と支援」

<プログラム>

12:00~ 受付

12:30~ 開会の挨拶 飯塚勝美(群馬D A家族会代表)

12:35~ 講演 芦名孝一氏(医師・群馬県こころの精神センター)

13:15~ 施設説明 日本ダルク アウェイクニングハウス

13:30~ 家族の体験談 群馬D A家族会

13:45~ 講演 佐藤浩司氏

(医師・群馬県立精神医療センター)

14:15~ 仲間の体験談

アウェイクニングハウス

14:45~ 休憩

14:50~ 講演 岩井喜代仁氏

(茨城ダルク代表)

15:30~ 全国薬物依存症者家族会連合会

理事長挨拶 林隆雄氏

15:40~ 講演 近藤恒夫氏

(日本ダルク代表

NPO法人アパリ理事長)

16:10~ 沖縄琉球太鼓演舞(エイサー)

アウェイクニングハウス

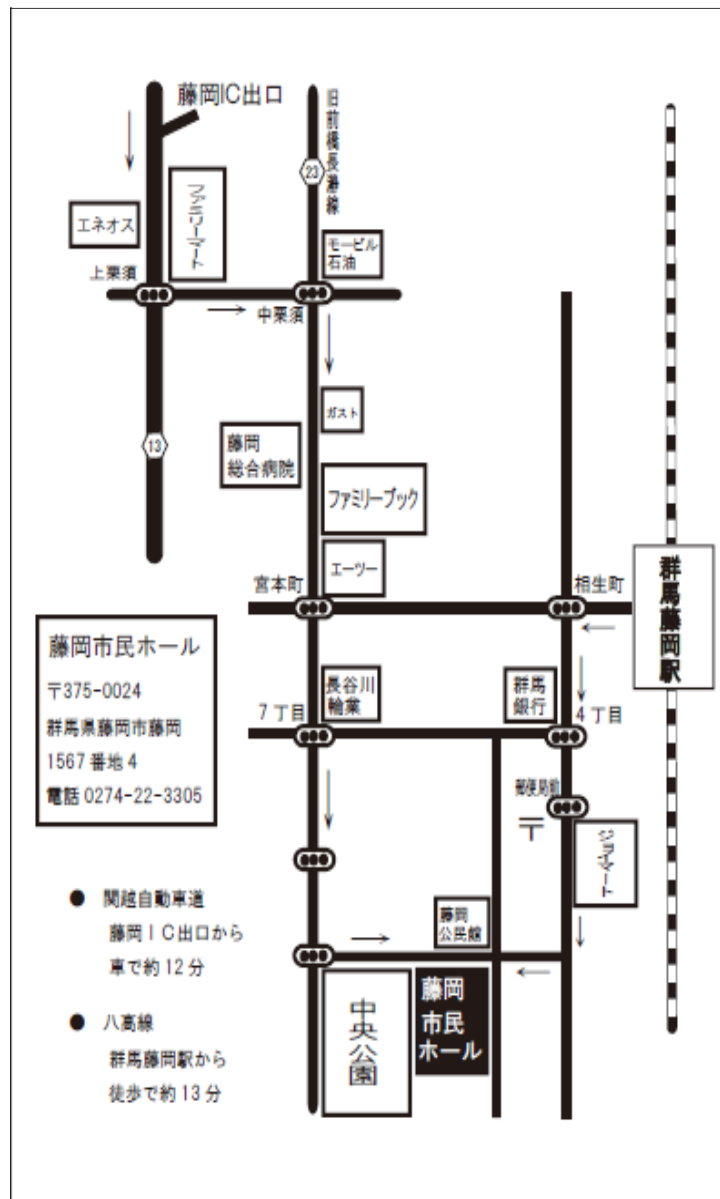
16:40~ 閉会の挨拶 山本大

アウェイクニングハウス ディレクター

<施設長より一言>

日本ダルク アウェイクニングハウスの山本です。
この度9月14日(日)藤岡市民ホールにて、群馬D A家族会の方たちと共に初めてのフォーラムを開催することになりました。このフォーラムを通して私たち日本ダルクアウェイクニングハウスの活動内容などを知って頂きたいと思っております。

ご多忙中とは思いますが、どうかご参加くださいますようお願い申し上げます。



会員募集中!

平成20年4月より新規会員(正会員・賛助会員)を募集します。ご入会していただいた方には、会報「フェローシップ・ニュース」を毎月お届けします。また、書籍購入の割引や公開講座・フォーラム、自助グループ開催に関する情報提供等、様々な特典がございます。アパリは立ち上げて9年目に入った組織です。今後も、薬物関連問題の新たなシステムとネットワーク構築のために全力を尽くしていく所存です。アパリに関するご意見ご要望がございましたらいつでもご連絡ください。

【年会費】 正会員：12,000円 賛助会員：6,000円

【期間】 平成20年4月1日～平成21年3月31日まで

【郵便振込】 番号：00160-7-136870 アパリ東京総本部

アウェイクニングハウスとは振込み先が異なりますのでご注意ください。

日本ダルク
公開シンポジウム
DVD販売中!
『日本版ドラッグ・コートの提案』
-新たな改革の可能性を探る- 08.06.13



受刑経験のある8名の体験談や公開シンポジウムの全てが収録されています!
(5時間30分)

1枚 2,000円

FAX: 03-5830-1791

メール: info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部
〒110-0014
東京都台東区北上野2-2-2 1F
電話：03-5830-1790
FAX：03-5830-1791
Email：info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター
(運営：日本ダルク アウェイクニングハウス)
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313

- 【入寮条件】
1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
2、男性(年齢制限なし)
【入寮期間】
基本的に13ヶ月
【入寮費】
月額16万円(初回17万5千円、生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください
<http://www.apari.jp/npo/>

発行者：近藤恒夫
編集責任者：志立玲子
平成20年9月1日発行
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート> アパリの支援

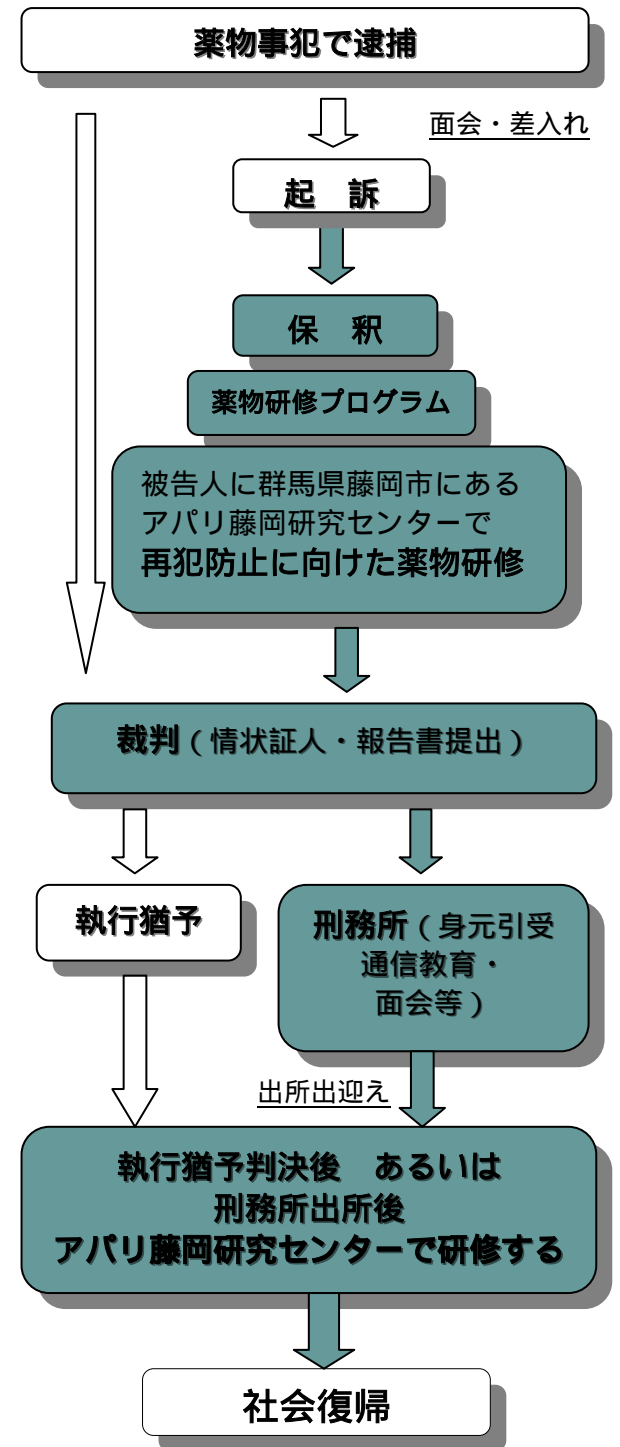
《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は5%以下です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です]

【お問合せは東京本部まで】



<家族教室>

「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

日時	ゲストスピーカー	テーマ
9月1日(月)		依存症にしない子育て
9月15日(祝)		回復に必要なもの
10月6日(月)		本人と家族のみぞ
10月20日(月)		共依存とは?
11月3日(祝)	ナラノンメンバー	やめ続けるために、家族ができること

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

【日時】第1・第3月曜日18:30~20:30(祝日も開催します)

【場所】アパリ・クリニック上野2階【参加費】3,000円(ご夫婦などでの参加は2名で4,000円になります)【内容】カウンセラーの町田がファシリテーターとなり家族との分かち合いを行います。法律問題については事務局長の尾田が担当します。【お問合せは東京本部まで】

<個別相談・カウンセリング>

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など 【料金】45分 9,000円
【場所】アパリ東京本部 【カウンセラー】町田政明[元神奈川県立せりがや病院勤務、ホープビル代表、寿アルク理事] 【予約】アパリ東京本部 03-5830-1790 【注意事項】当日のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。遅れていらした場合は時間が短くなりますのでご了承ください。